

ホオズキ品種「佐賀H5号」の切り枝栽培に適した栽植密度					
<p>[要約] ホオズキ品種「佐賀H5号」を用いた切り枝栽培では、栽植密度を慣行の1.5倍に密植すると、初期の生育が促進され、収穫時の切り枝長確保につながるとともに、宿存がくの着生数も確保できる。</p>					
佐賀県農業試験研究センター・野菜花き部・花き研究担当			連絡先	0952-45-2143 nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp	
部会名	花き	専門	栽培	対象	ホオズキ

[背景・ねらい]

ホオズキは、県内の様々な地域で栽培されている主要な特産花きの一つである。当センターでは、これまでに、宿存がくの連続着生および着色が優れる「佐賀H5号」を切り枝栽培に適する品種として育成した。一般的なホオズキ品種は、密植により徒長や宿存がくの着生数減少につながるが、「佐賀H5号」は、初期の生育が緩慢で、宿存がくの着生が格段に優れるため、密植栽培に向くと考えられる。そこで、「佐賀H5号」に適した栽植密度を明らかにする。

[成果の内容]

- 栽植密度を慣行の1.5倍に密植すると、初期の生育が促進され、収穫時の切り枝長も長くなる。また、節数は慣行とほぼ変わらず、節間長がわずかに長くなる（写真1、表1）。
- 宿存がくの着生数は、1.5倍に密植しても、慣行と同程度の着生数を確保できる（図1）。
- 栽植密度を慣行の2倍に密植すると、節数は約2節少なくなり、さらに、宿存がくの着生数も減少する（表1、図1）。
- 密植栽培しても、宿存がくの大きさへの影響はみられない（表2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1.5倍密植の栽植本数は、10a当たり約13,200本である（株間：10cm、畦幅：90cm、畦間：60cm、2条植え）。
- 宿存がくの着色促進処理は、エテホン125ppm（商品名：エスレル10、800倍液）を収穫3週前に1回茎葉散布した。
- 本試験は、センター内の雨よけハウスを用いた地床栽培（土壌は灰色低地土）で栽培した結果である。

[具体的なデータ]



写真1 1.5倍密植区の初期生育の様相

¹1.5倍密植区：奥の中央(矢印で示した場所)

表1 栽植密度の違いが収穫時の切り枝長に及ぼす影響

栽植密度	切り枝長 (cm)	節数 (節)	節間長 ² (cm)
2倍密植区	140.5 a ^y	27.3 b	5.1 a
1.5倍密植区	144.1 a	27.9 ab	5.2 a
慣行区	133.1 b	29.3 a	4.5 b

²節間長=切り枝長/節数

³Tukeyの多重検定により、同一列の異符号間に5%水準で有意差あり

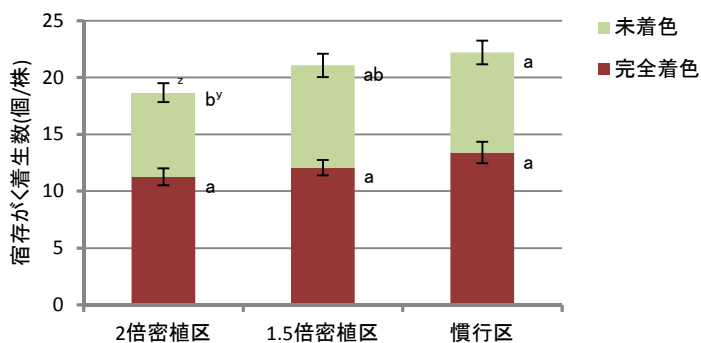


図1 栽植密度の違いが収穫時の宿存がく着生数に及ぼす影響

²Barは標準誤差を示す

³Tukeyの多重検定により、異符号間に5%水準で有意差あり

表2 栽植密度の違いが収穫時の宿存がくの縦径および横径に及ぼす影響

栽植密度	1-5節			6-10節			11-15節		
	縦径 (mm)	横径 (mm)	縦/横比	縦径 (mm)	横径 (mm)	縦/横比	縦径 (mm)	横径 (mm)	縦/横比
2倍密植区	54.2 a ^z	55.1 a	0.98	58.0 a	52.4 a	1.11	58.2 a	50.8 a	1.15
1.5倍密植区	56.9 a	58.3 a	0.98	61.9 a	54.8 a	1.13	61.3 a	52.2 a	1.17
慣行区	53.9 a	55.7 a	0.97	58.8 a	54.6 a	1.08	62.0 a	52.4 a	1.18

³Tukeyの多重検定により、同一列の異符号間に5%水準で有意差あり

【耕種概要】 地下茎定植:3/17、 収穫時調査:8/2
 基肥窒素施用量:15kg/10a
 栽植密度:約 8,800 本/10a(慣行区)、約 13,200 本/10a(1.5倍密植区)、約 17,600 本/10a(2倍密植区)
 着色促進処理:エスレル 10 800倍液、収穫3週間前1回処理
 摘芯:無摘芯
 試験規模:約 1m²/試験区、3反復

[その他]

研究課題名：佐賀オリジナルブランドを創出する地域特産花き類の新品種開発

予算区分：県単

研究期間：平成 28 年度

研究担当者：高取由佳、松村司、坂本健一郎、月足公男